

雨水ポンプ場の整備により 雨水を河川へ速やかに排除し、浸水被害を軽減

3か年緊急対策

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要: 気候変動の影響や都市化の進展による内水氾濫の発生リスク増大を受け、浸水リスクが高い地区にて下水道による都市浸水対策を実施した結果、令和7年9月5日の大雨時の浸水被害を防止した。

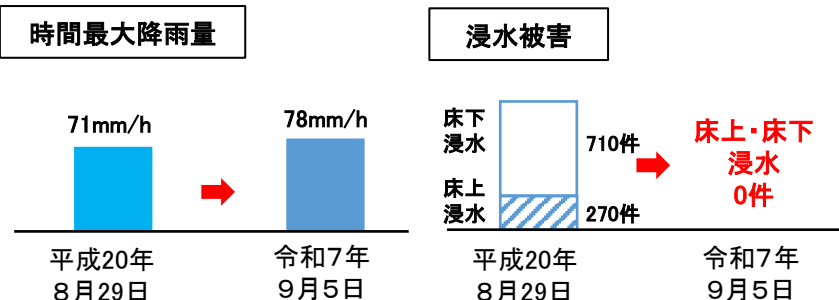
対策名: 1-2 流域治水対策(下水道) <5か年加速化対策> 【国土交通省】

- 実施主体: 愛知県岡崎市
- 実施場所: 愛知県岡崎市(六名地区)
- 事業概要: 当該地区は、平坦な地形のため浸水常襲地区であり、過去にも浸水被害が発生した。本事業は床上浸水被害を軽減することを目的とし、六名雨水ポンプ場及び六名放流渠(令和5年4月供用開始)を整備したものの。
- 事業費: 約53億円



主な事業	事業費	実施期間
ポンプ場整備事業	約53億円	R1~R4
うち3か年緊急対策及び5か年加速化対策	約6億円	R1~R4

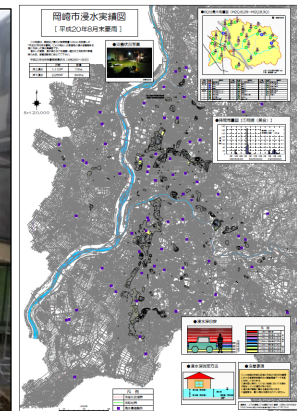
- 災害の外力、被害と効果: ※時間最大降雨量
平成20年8月29日の大雨(71mm/h※)では、当該地区で床上浸水270戸、床下浸水710戸もの甚大な被害が発生したが、雨水ポンプ場の整備により、令和7年9月5日の大雨(78mm/h※)では、床上・床下浸水の被害がなく、浸水被害を防止。



浸水状況(平成20年8月29日)



浸水状況(令和7年9月5日)



内水ハザードマップ

- 関連施策: ソフト対策として内水ハザードマップを作成・公表。